

## 総会

配布：一般

2015年10月12日

原文：英語

### 人権理事会

#### 第30会期

##### 議事日程議題9

### 2015年10月2日に人権理事会により採択された決議

#### 30/16. 美辞麗句から現実へ：人種主義、人種差別、外国人排斥および関連する不寛容に反対する具体的行動を求める世界的呼びかけ

人権理事会は、

人種主義、人種差別、外国人排斥および関連する不寛容に反対する世界会議並びにダーバン宣言と行動計画の効果的実施の包括的フォローアップに関するその従前の全ての諸決議を想起し、

これに関連した総会諸決議もまた想起し、そしてその全面的なまた効果的な実施の是非ともしなければならぬ必要性を強調し、

ダーバン宣言および行動計画の採択から長い年月が知らぬ間に経過してきたことを懸念し、そしてその目的がまだ果たされていないことをこれに関連して憂慮し、

上記の状況において、その幾つかが、同時に起こる人種的なプロファイリングを伴った暴力の形態をとる、あらゆるその形態および表現における人種的に動機付けられた憎悪の事件が増加していることをまた懸念し、

自らの十分な市民権の行使がないことを含んで、個人や個人の集団が、自らが生活している国における公的なまた政治的な生活に十分に参加することを邪魔している法的障害を取り去ることと差別的な慣行を取り除くことの重要性を強調し、

1. アフリカ系の人々のための国際 10 年<sup>1</sup>の実施のための活動計画の採択を歓迎する。
2. 国際連合人権高等弁務官に対し、同 10 年の調整者としての彼の資格で、人権理事会の第 31 会期に、同 10 年の枠組内での活動計画の実施に対するフォローアップにおける彼の活動についての最新情報を提出することを招請する。
3. まだそのようにしていない全ての国家に対し、ダーバン宣言の第 75 項および行動宣言に適合して、あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約の第 4 条および市民的及び政治的権利に関する国際規約の第 18、19 並びに 20 条に関するその留保を、これらの留保が、これらの中核的な国際連合書の趣旨および目的に反するので、撤廃することを考慮することを求める。
4. 全ての国家に対し、人種主義、人種差別、外国人排斥および関連する不寛容の存在についての思わせぶりな言動や否認主義を終わらせることを求める。
5. あらゆる形態の人種主義、人種差別、外国人排斥および関連する不寛容を取り除くための政治的意思と公約の重要性を強調する。
6. 上記の状況において、高等弁務官の管理の下での人種平等インデックスを維持することの優位を強調する。
7. ダーバン宣言と行動計画の効果的な実施に関する政府間作業部会に対して、ダーバン宣言と行動計画の採択 15 周年の記念のための準備を始めることを、そして理事会の第 31 会期にそれに関する報告を提出することを要請する。
8. 総会に対し、ダーバン宣言と行動計画の採択 15 周年を考慮して、あらゆる形態の人種差

---

<sup>1</sup> 総会決議 69/16 を参照。

別の撤廃に関する国際条約の普遍的な批准、同条約の第4条に対する留保の撤回、同条約の第14条に対する宣言の提出、総会の第71会期のハイレベル会合における人種主義のあらゆる悩みの全面的廃絶に専ら専念した国内行動計画の策定を含む、その完全且つ効果的な実施に関するテーマに専念することを要請する。

9. 加盟国、国際連合制度および非政府組織を含む全ての関連する利害関係者に対し、その採択の15周年の記念に対するフォローアップにおけるダーバン宣言と行動計画の完全且つ効果的な実施に対する支援を構築するためにその取組を強めることを招請する。

10. この重要な問題に引き続き取り組むことを決定する。

第42回会合

2015年10月2日

[32対12、棄権3の記録投票により採択された。投票結果は以下の通り：

賛成：

アルジェリア、アルゼンチン、バングラデッシュ、ボリビア（多民族国家）、ボツワナ、ブラジル、中国、コンゴ、コートジボワール、キューバ、エルサルバドル、エチオピア、ガボン、ガーナ、インド、インドネシア、カザフスタン、ケニヤ、モルディブ、メキシコ、モロッコ、ナイジェリア、パキスタン、パラグアイ、カタール、ロシア連邦、サウジアラビア、シエラレオネ、南アフリカ、アラブ首長国連邦、ベネズエラ（ボリバル共和国）、ベトナム

反対：

アルバニア、エストニア、フランス、ドイツ、アイルランド、ラトビア、モンテネグロ、ナミビア\*、オランダ、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国、グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国、アメリカ合衆国

棄権：

日本、ポルトガル、大韓民国]

---

\* ナミビア代表団は、その後、投票において誤りがあり同代表団は、決議案に賛成票を投じるつもりであったと述べた。